

中間報告

事業地写真



プネ市のカウンターパート HCDI 本部にて ICA とプロジェクトを推進に当たり最終確認をする日本人専門家
(07/06/2012) Pune 市



コミュニティセンターの業者選定に立ち会う日本人建設専門家とパトナの建業者業者との面接会議 (16/07/2012)



プネ市 HCDI 本部にて 水耕栽培プロジェクトについてパワーポイントで説明する日本人専門家の井澤氏。(08/06/2012) Pune 市



プロジェクト現場の地図：デリーからパトナは飛行機で、パトナからサハルサまで車で5時間かかる。(14/06/2012)



2008年の洪水で浸水したラニパテ村 (Ranipatti) 村を流れる川。周辺は荒地と化している。(15/06/2012)



かまどがひとつ、家の外で食事をつくる村の少年



コルラヒ村 (Korlahi) の落開発委員の案内でコミュニティセンターの建設現場を視察する日本人専門家達。(14/06/2012)



コミュニティセンターのためにコルラヒ村の村人から寄付された土地は落開発委員会に登録された。(14/06/2012)



Korlahi 村はコミュニティセンター建設への意識が高く最初に建設が始まったである。(23/08/2012)



Korlahi 村に資機材が持ち込まれ、建設への住民の期待が現実となった。(23/08/2012)



コミュニティセンターの土台のサイズが微妙に変化していたため、現地技術者を派遣して詳細に点検し、図面通りに修正してした。(07/09/2012)



コルハリ村 (Korlahi) はセンターの壁が出来ている。住民が現場に立ち会い、業者が質の良いレンガを使っているかどうか、毎日 モニタリングを行う。



ジャムアハ村 (Jamuaha) は、寄付され登記が終わった土地について、兄弟間で意見が割れたため、政府代表とマデープラ郡オフィスと相談し、同村で使われていない政府用地を新たに確保した。(10/09/2012)



Jamuah 村コミュニティセンター近くの村の様子 (10/09/2012)



センターは洪水防止のため、土台を高く積み上げている。ジャムアハ村にて(10/11/2012)



Jamuaha 村の幼稚園児が学んでいる小屋。50 人の子供達を 1 人の先生元が教えている。狭い教室で歌や披露する子供達。(14/06/2012)



Jamuaha 村の幼稚園で伊澤氏が持ってきた手作りの駒をお土産を児童に渡し、日本について説明するスタッフ。(14/06/2012)



スクハサン村 (Sukhasan) の幼児。コミュニティセンターが完成すると、10ヶ村の児童は、各センターで学べるようになるため心待ちにしている。(15/06/2012)



Sukhasan 村の建設現場風景
(07/09/2012)



Sukhasan 村の建設現場近くの風景
(07/09/2012)



開始された Sukhasan 村のコミュニティセンターの基礎工事。(24/08/2012)



現場は黒土で柔らかく footing だと沈む可能性があるため 2.50m のクイを打った。
(29/08/2012)



基礎型枠をつくりコンクリートを流し込む作業が進んでいる (07/09/2012)



Sukhasan 村のレンガ積み上げ作業。
(10/09/2012)



Sukhasan 村では壁が出来上がり 12 月末には完成見込み。(10/09/2012)



第 2 回モビリゼーションセミナー：Korlahi 村の参加者 89 人と事業内容を確認し、地域住民及び関係者間の理解を深める。(26/06/2012)

Sukhasan 村では屋根がもうすぐかけられる状態となっている。11/09/2012)



第 1 回モビリゼーションセミナー：地域開発委員会が主体となって、事業の説明を聞く住民。(26/04/2012)



Korlahi 村の地域開発セミナー：集まった住民 97 人はグループに小分かれて地域の問題点を話し合った。(20/04/2012)



女性も意見が云う事ができてうれしそう。(20/04/2012)



Jamuaha 村の地域開発セミナー：各グループは地域が直面している課題を話し合う。児童労働、男女の差別、教育、搾取などが上げられ、全体でシェアする。73 人が参加。(14/06/2012)



Jamuaha 村で地域開発セミナー：専門家の佐藤がコミュニティー開発では経済、文化、政治のバランスの取れた開発について説明 (14/06/2012)



Jamuaha 村の SHG グループメンバーと ICA スタッフの清水貴子。マイクロファイナンスについての基本的コースについて話し合う。
(26/06/2012)



右から 2 人目はマデープラ郡知事。知事から支援への感謝と村の開発について ICA に意見を求めた。[電気、道路、農業普及、女性のエンパワーメントなど]を提言した。
(16/06/2012)



マデープラ郡知事に事業の概要説明と今後の協力を要請した。(6/06/2012)



家の周りには燃料にする牛糞が並べられている。朝早くに女性が手で丸めて干すのも女性や子供の仕事



路上講演（演劇による啓蒙活動：バラナシのプロの演劇グループから路上講演の基本を学ぶ若者達。
(20/08/2012)



少年達は講師から直接指導を受け、8月20日～25日まで路上講演の練習を受け、新たにグループがスタートした。
(20/08/2012)



8月22日は、バラナシの専門講師から10人の若者がトレーニングを受けた。5日間で67名がトレーニングに参加した。
(2012年8月20-25)



最終日には Ranipatti で初公演を行った。103人が参加。不正に対抗するには教育と団結が必要であると訴える啓蒙活動も含まれている。
(25/08/2012)



Ranipatti 村での講演の後、フィードバックを行った結果、今後も練習と公演を重ね、新しい劇を作り、活動を続けたいと願っていることがわかった。
(25/08/2012)



災害防止準備トレーニング：Ranipatti 村で大洪水を振り返り、災害への備え、緊急時の連絡体制、村落開発委員会の役割、応急処置、支援対応についての訓練を受けた。
(23/08/2012)



Ranipatti 村で子供議会、村落開発委員、女性(SHG)グループ、農家自助グループ、青年リーダーのメンバーが災害防止訓練の指導を受けた。3日間で272人が参加した。
(24/08/2012)



Ranipatti 村で災害予防をする為のマッピング作業。主要な避難場所等を確認する。
(24/08/2012)



Ranipatti 村で災害時の応急処置のトレーニングをしている。(25/08/2012)



SHG メンバーが災害の時の体験を話し、避難訓練の必要性を訴えている。



Ranipatti で村の管理地に選ばれた場所 (25/08/2012)



青少年の技術指導：洋裁教室で指導を受ける研修生



ST. PETER 'S VOCATIONAL SCHOOL マデープラ村から 12 名が参加している。大工、車・バイクの修理、溶接、洋裁他の技術指導 (25/08/2012)



寄宿舍 1981 年に職業訓練校として設立



バイク修理を学ぶ学生と一緒に記念写真
伊澤、久保田、佐藤



自動車整備、エンジンの修理を学ぶ学生達



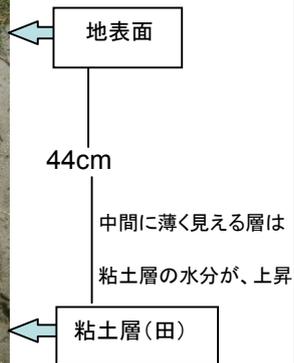
大工の訓練
家具を作っている学生



カンナの掛け方の練習を



農業: 2008年の洪水で堆積した砂が44cmある

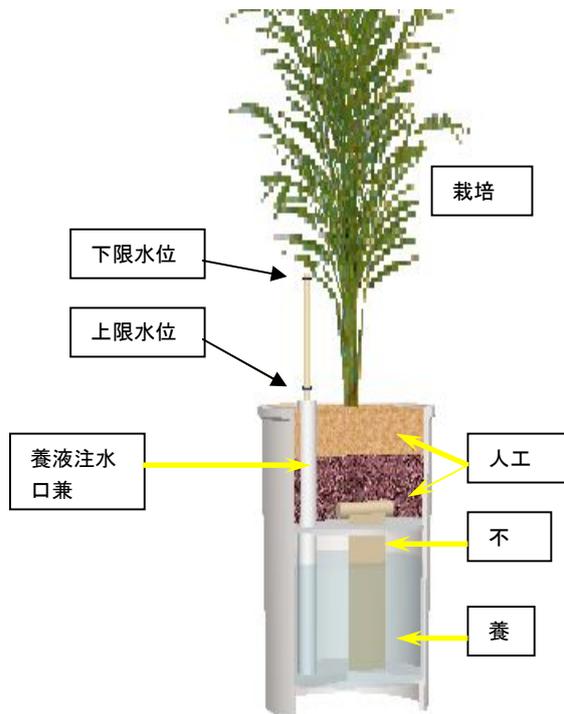


砂が堆積し、耕作が不可能となった土地が広大に残されている。現在は栄養分がなく、荒地となっている。



<農業指導>

水耕栽培は荒地でも可能である。また自作耕地をもたない小作農民が家のまわりで、葉菜類（葉レタス、ハーブ等）、果菜類（トマト、ナス、キュウリ等）を収穫出来、しかも健康補充野菜栽培に適し、ポット数を増やせば換金作物栽培農業も可能となる。洪水で土砂の堆積した耕作不適地や、電気が無い地域でも栽培が出来るのが特徴である。水耕栽培の研修として無電地域でも可能なポット式水耕栽培を紹介した。



現地で作られているポットを利用して、水耕栽培を指導した。



現地農業省に指導する日本人専門家。



水耕栽培を植えた農民達



水耕栽培を指導する日本人専門家
農民への実施と Q&A